

医療と介護の連携支援センター 2020年度実績について

1

医療と介護の連携支援センター
センター長 長谷川 昌之

【医療と介護の連携支援センターとは】

2020年4月より、市内13番目の高齢者支援センターとして開設。

【おもな業務内容】

①相談対応（2020年度相談件数 972件）

高齢者の在宅療養を支える医療と介護の専門職からの相談に応じ、必要な情報提供や支援を行う。

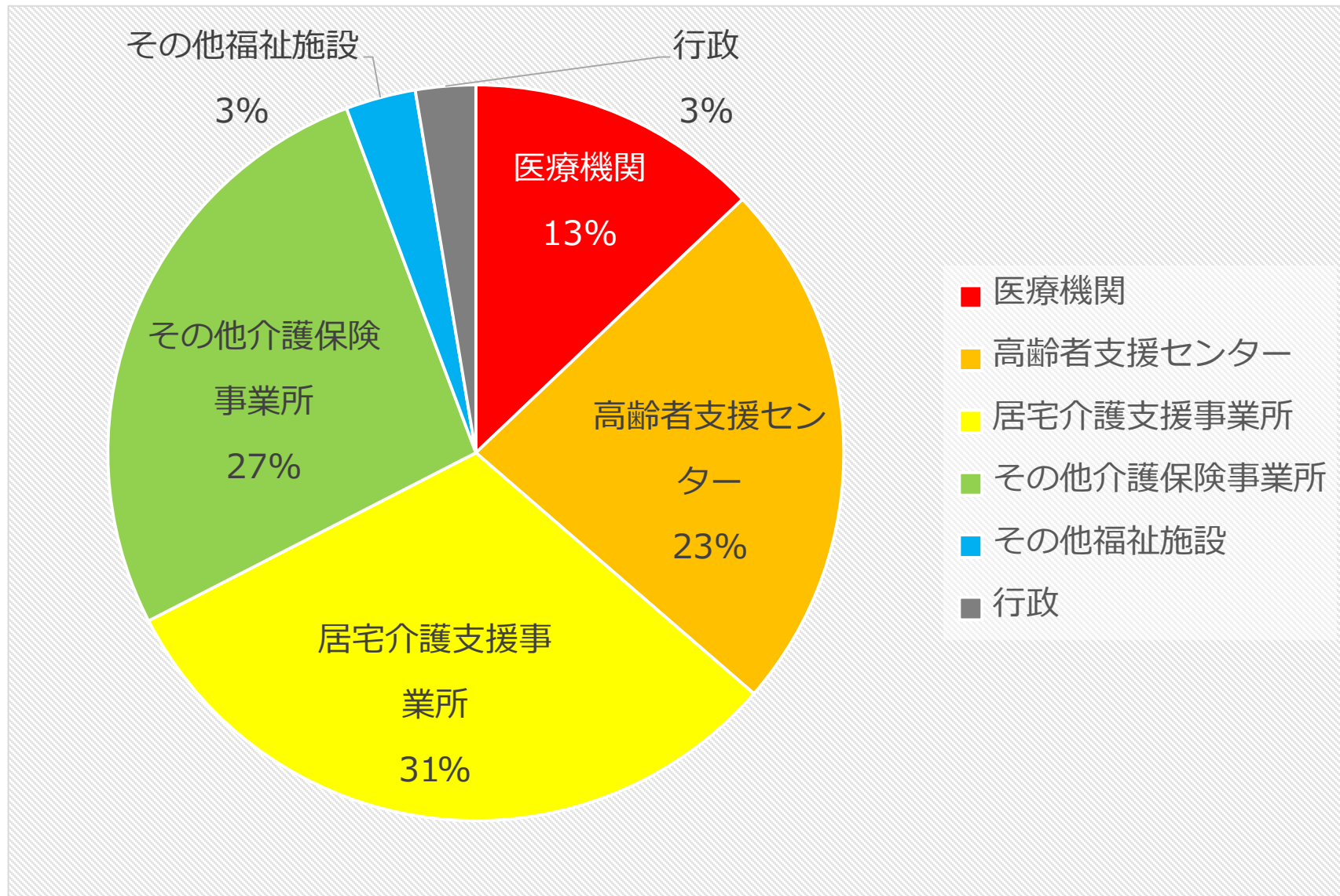
②課題解決に向けた調整

医療と介護の専門職が高齢者を支援する際に生じる困りごとなど、地域の課題を抽出し、その解決に向けた調整を行う。

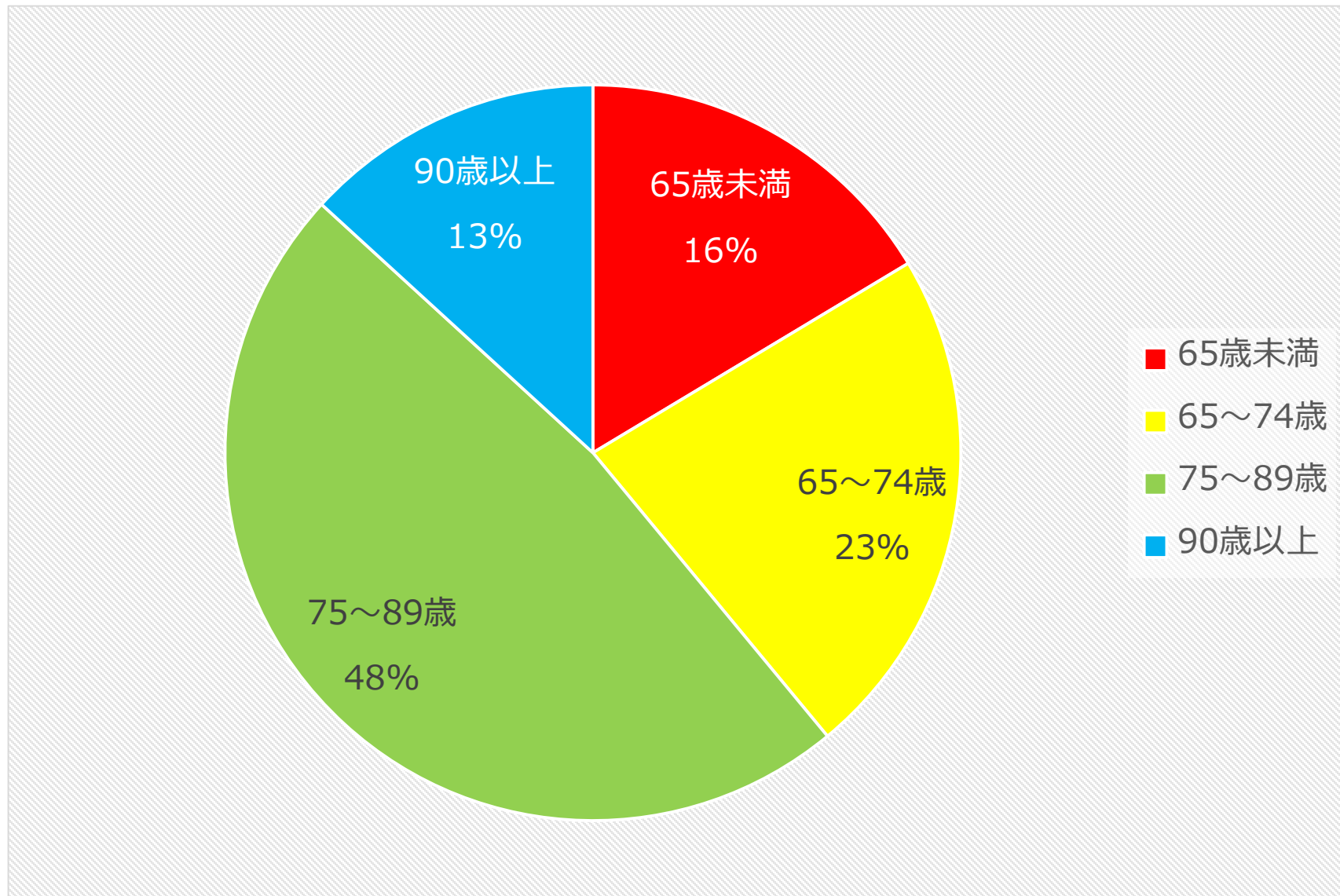
③連携強化に向けた支援

医療と介護の専門職が互いの役割を理解し、円滑に連携が進むよう、連携のためのツールやノウハウの普及など、各種支援を行う。

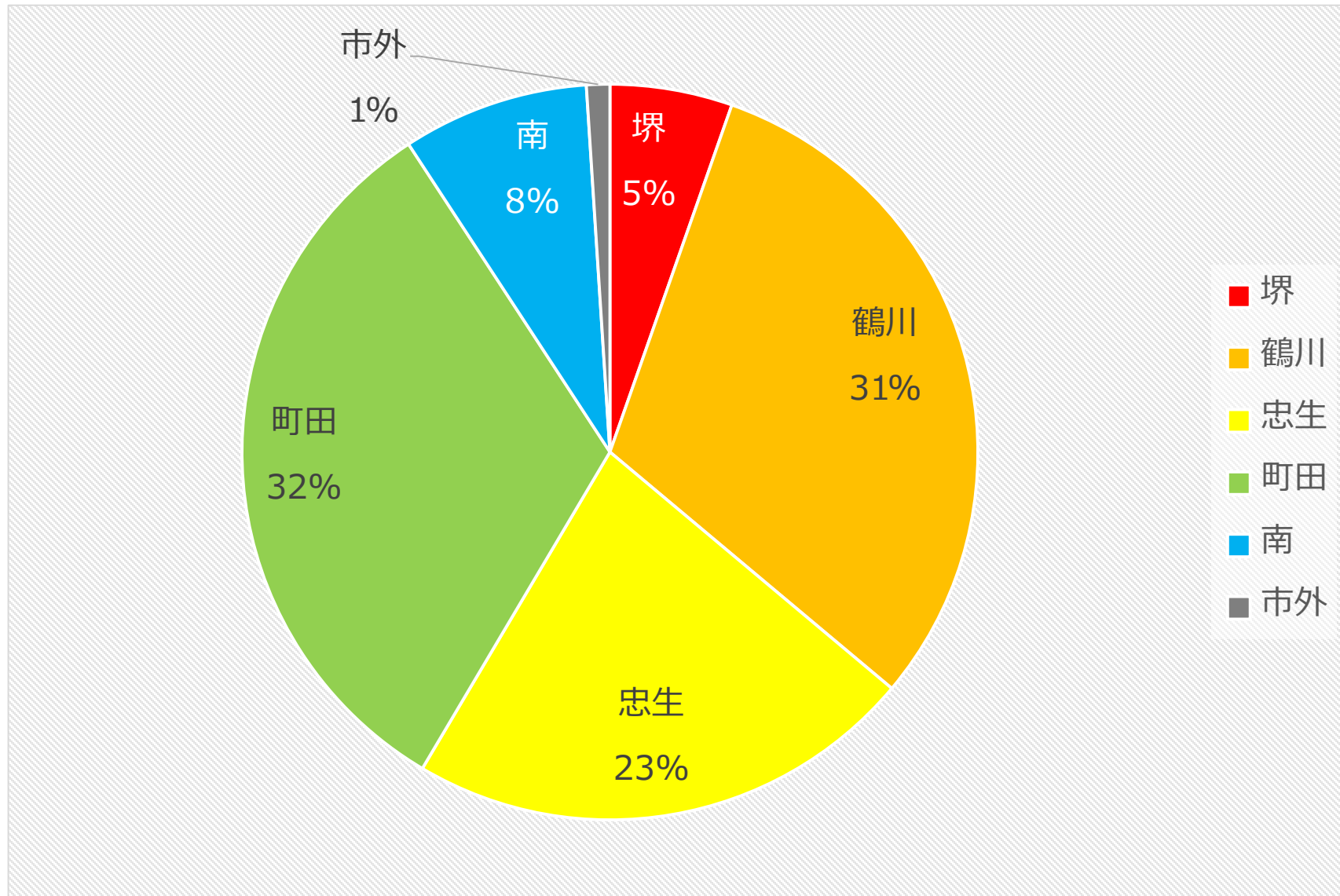
相談者の所属機関属性



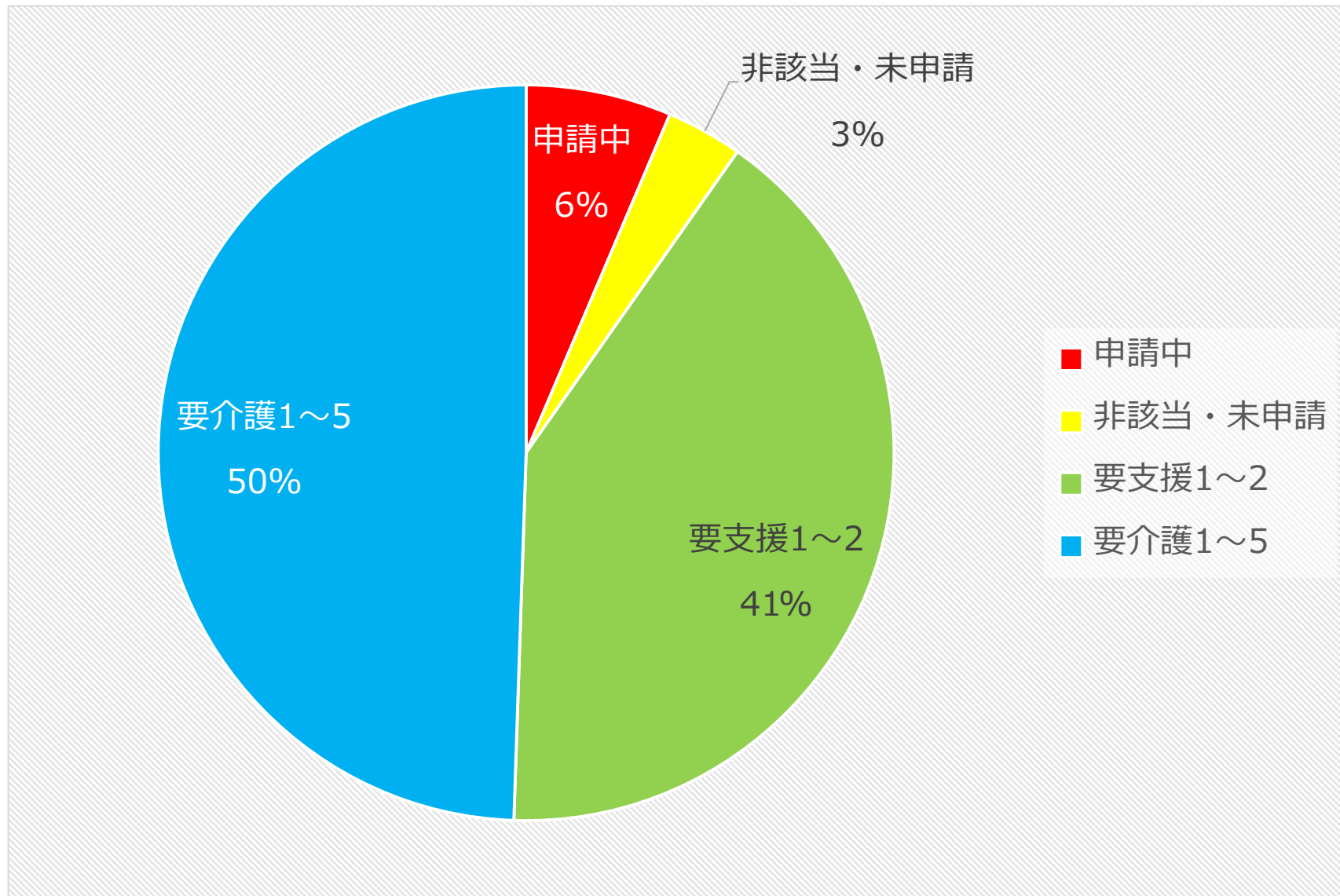
相談対象者の年齢区分



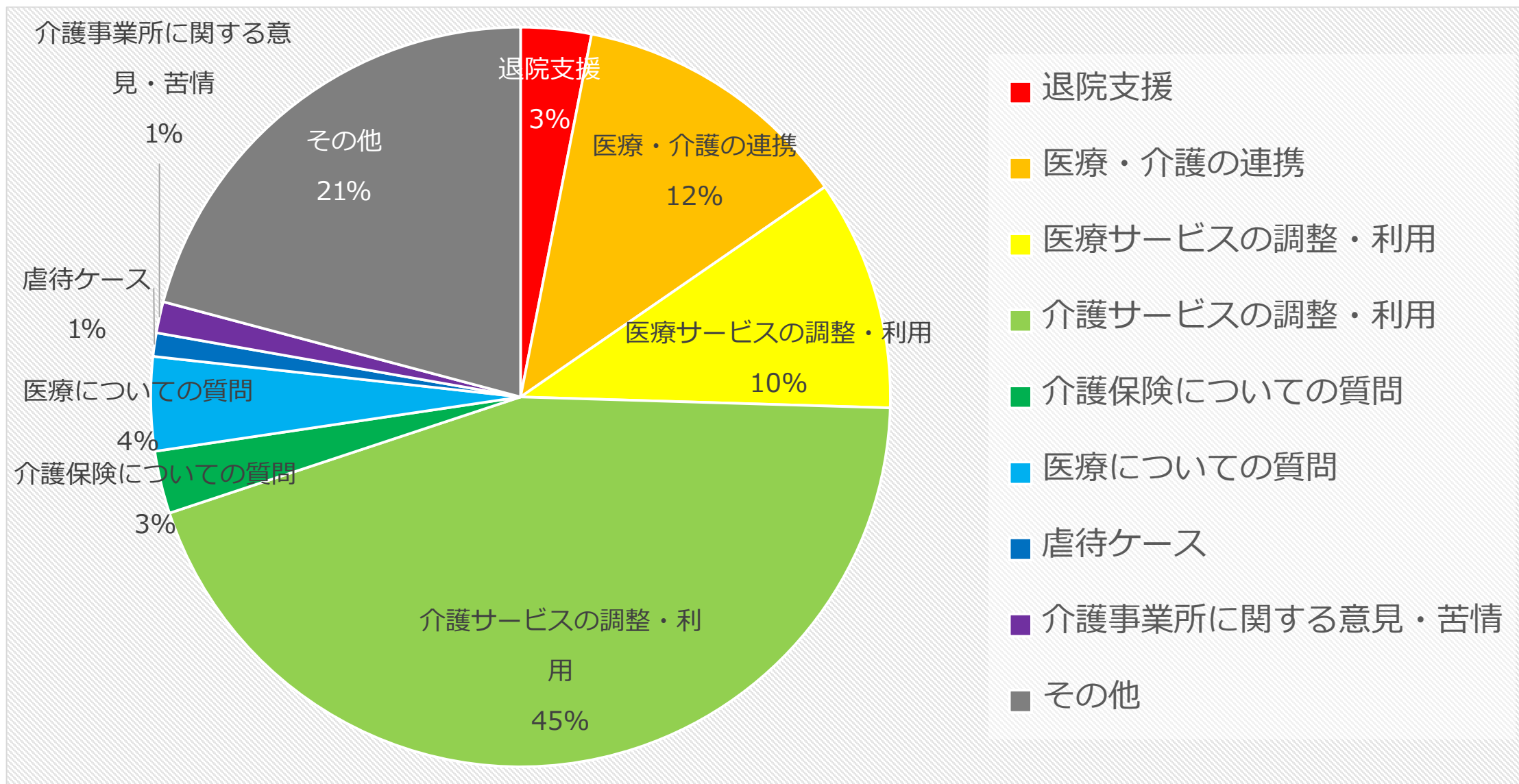
対象者の所在圏域



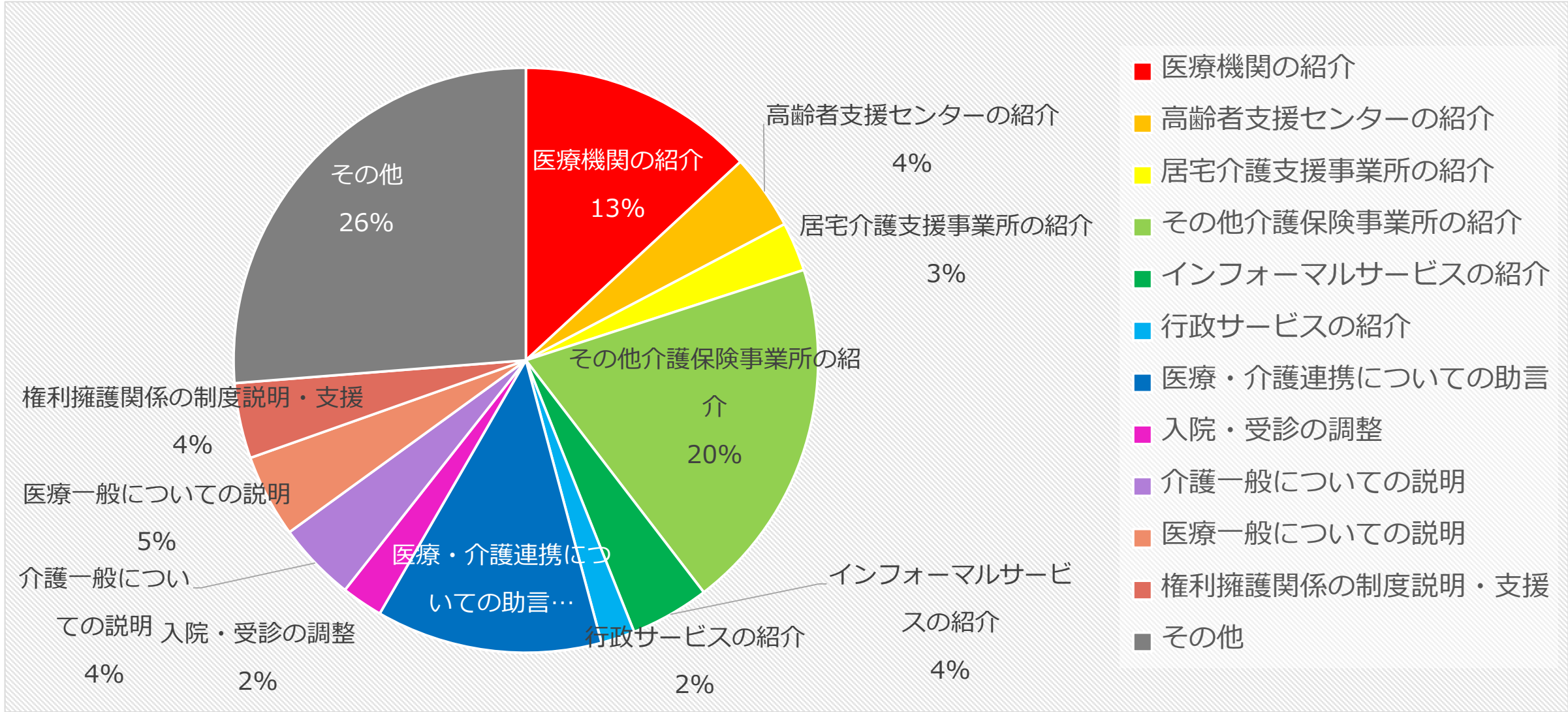
対象者の介護保険認定状況



相談内容内訳



対応内容内訳



相談事例

相談対象	相談・対応内容
診療所医師	胃がんターミナルの方。通院から訪問診療に切り替えたいが、自院の訪問エリア外にお住まいの為、他の医療機関を探している。 ⇒対象エリアにある医療機関を複数紹介した。
病院退院支援看護師	肺炎で病院に入院中の方。廃用症候群となり、中心静脈栄養・酸素吸入・喀痰吸引あり。同居の家族いるが在宅療養に関して非協力的である。退院先についての相談。 ⇒療養型病院を複数紹介した。
高齢者支援センター	有料老人ホームに入居中の方が転倒し、骨折で入院中。入院中に排尿困難となりバルーンカテーテル挿入。入居施設より、カテーテル留置のままだと受入は困難と言われている。医療処置がある方の受入が可能な施設を紹介してほしい。 ⇒入院中にカテーテル抜去ができないようであれば、骨折のリハビリ目的で老健を利用し、その間にカテーテル抜去を試行してみてはと助言を行った。
居宅介護支援事業所	進行性核上性麻痺の方の相談。本人は喋れなくなることへの不安が強く、言語訓練の希望がある。言語聴覚士のいる訪問看護ステーションを教えてほしい。 ⇒言語聴覚士が所属する訪問看護ステーションを紹介し利用開始となった。

相談事例

相談対象	相談・対応内容
居宅介護支援事業所	市外の透析クリニックに通っている方が特養への入所を検討している。透析受入可能な特養の情報がほしい。 ⇒透析受入可能な市内の特養と、現在通院中のクリニックの送迎範囲内にある市外の特養を紹介した。
有料老人ホーム	市外の有料老人ホームより、パーキンソン病で胃ろう、喀痰吸引（頻回）がある方の転所先についての相談。 ⇒市内の特養、療養型病院について情報提供を行った。
高齢者支援センター	新型コロナウイルス感染症に関し、自費でのPCR検査や抗体検査を行っている医療機関はあるか。また、発熱外来を設置している医療機関を教えてください。 ⇒自費での検査を行っている、また、発熱外来を設置している市内の医療機関を紹介した。

相談事例

相談対象	相談・対応内容
居宅介護支援事業所	新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる、または発熱している高齢者がPCR検査センターや医療機関へ行く際に利用できる交通手段があれば教えてほしい。 ⇒介護タクシー事業所や民間のタクシー会社へ問い合わせを行い、利用可能と回答のあった介護タクシー事業所を紹介した。
居宅介護支援事業所	同居介護者が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となった。本人は介護者の介護なしでは在宅での生活が継続できないため、利用できる入所・入院施設があるか。 ⇒同様の相談が多数あったため、当センターより行政へ働きかけを行い「在宅要介護者受入支援事業」として事業化された。
居宅介護支援事業所	同居家族が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となった。その状況では、本人が利用している在宅サービス事業所がサービス提供不可となってしまった。他に利用可能な事業所があるか。 ⇒同様の相談が多数あったため、当センターより行政へ働きかけを行い「在宅要介護者受入支援事業（居宅）」として事業化された。

参加した会議体等

- ・ 町プロ協議会
- ・ 町プロ多職種連携研修本会および部会
- ・ 町プロウォークラリーイベント
- ・ 各圏域地域ケア会議本会および企画会
- ・ 町田市高齢者支援センター運営協議会
- ・ 町田市高齢者支援センター連絡会
- ・ 各地区民生児童委員協議会
- ・ 相模原町田地区介護医療圏インフラ整備コンソーシアム
- ・ 医療連携会議

など延べ222件に参加